

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和 5 年 5 月 1 日

事業所名 こどもプラス豊見城教室別館

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	2	・運動器具が豊富にあり、発散も出来るくらい広い環境。 ・ボルダリングもある。	
	2 職員の配置数は適切である	6	3	・多様な職種の職員がいる	
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	6	3	・怪我防止の為にクッションを設置したり、飛び出し防止で柵を設置している。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8	1	毎回利用後、玩具類等の消毒・床マット・トイレ等を清潔にしている。	
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	2	朝・昼・終礼にて話し合っている。	
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8	1	毎年取り組み、改善に繋げている。	
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	7	2	毎年取り組み、公表している。	
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	3	6		
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8	1	動画研修や外部の研修に参加している	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	7	2	契約時や児童の様子に変化が見られた際に保護者と相談している。	
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	2	契約時にアセスメントシートの記入をお願いしている。	
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	3	保護者や相談員、本児と相談して設定している。また、支援者同士で必要であれば変更したりしている。	
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8	1	支援者が理解出来るようにケース会議を行っている。	
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	8	1	公園外出やイベント等を担当をつくりつつ、皆で立案している。	
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8	1	週ごとで運動遊びを変えたり子ども達の様子で変更している。	
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	7	2	集団遊びや個別での活動を支援内容に組み込んでいる。	

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	9	0	朝礼・前日の終礼で確認している。必要であれば共有ファイルにメモを残している。	
	18	9	0	終礼で振り返りをしつつ、必要なことは共有ファイルにメモしている。	
	19	9	0	児童が帰ったあと、記録をとっている。変化があれば皆で共有している。	
	20	9	0	相談員や園の先生、保護者また支援者でも話し合いをもっている。	
関係機関や保護者との連携関係機関や保護者との連携	21	9	0	管理者が基本参加しているが、必要に応じて児童指導員や保育士が参加もしている。	
	22	7	2	必要な児童には相談員を通じてやりとりをしている。	
	23	0	9	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	現在、対象の児童はいないが、必要に応じて行っていく。
	24	0	9	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	現在、対象の児童はいないが、必要に応じて行っていく。
	25	6	3	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	必要な児童や保護者から依頼があれば行っている。
	26	6	3	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	必要な児童や保護者から依頼があれば行っている。
	27	5	4	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	研修については希望者が受講し、受講者からの情報共有を行っている
	28	5	4	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	感染症やコロナが落ち着いたら開催予定
	29	4	5	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	今後担当をつかって参加可能な時に参加出来たらと考えている
	30	8	1	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	終礼や共有ファイルにて共通理解を深めている
	31	7	2	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	プログラムはないが相談や助言は行っている
	32	7	2	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	契約時変更時に全利用者に伝えている
	33	7	2	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	保護者や本児と相談して内容を作成し、同意を得ている

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	0	相談があればその日または時間をとって面談を行ったりしている	
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	5		今後開催予定
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	7	2	支援者が判断できる場合はその場で対応し、難しければ管理者が対応する用になっている。	
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8	1	毎月写真付きで全利用者に配信している。	
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	9	0	鍵付き倉庫に保存したり、名前を見られないように置き方を工夫している	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	9	0	相談員や保護者の親へも連絡して皆で支援していけるようにしている。	
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	4	5		今後イベントにて開催予定
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	7	2	研修や年2回の防災訓練を実施している	
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	7	2	研修や年2回の防災訓練を実施している	
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	1	対象児が居る際は全職員で共有している	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	7	2	おやつを別にしたり、食べる場所を分けている。必要に応じて食べる物を変えたりしている	
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	9	0	作成し、振り返り対応を行っている	
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	9	0	動画研修や外部の研修にも参加している	
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	2	必要な児童には保護者へ確認をとっている	個別支援計画には反映出来ていないので、今後修正して作成予定

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。